

URUMA CATALOG

うるまカタログ

2010

見どころ満載。うるま



うるま市の

GOGO FESTIVAL

まつり

うるま祭り

うるま市産業まつり

青年エイサーまつり

あやはし海中ロードレース

Festivals & Events

うるま市では、一年を通じて様々な祭りやイベントが催されています。

最も大きな祭りといえば「うるま祭り」(10月)。地域の伝統芸能、闘牛、ライブなど、見所満載の祭りです。

そのほかにも、海中道路をコースに行われる「あやはし海中ロードレース大会」(4月)、「各地のハーリー大会」(6月)、「うるま市エイサーまつり」(旧7月)、「全島獅子舞フェスティバル」(9月)、「うるま市産業まつり」(12月)、「春の芸術祭」(1月)など、スポーツ、文化・芸術、産業と幅広い分野で、多彩な祭り・イベントが催されています。また、沖縄県闘牛連合会主催の闘牛沖縄一を決める「全島闘牛大会」(5月、11月)が開催されます。

In Uruma City, various festivals and events are held throughout the year. The largest festival is the Uruma City Festival in October, featuring performing arts, bullfighting, live concerts and a full schedule of noteworthy entertainment.

Many other colorful festivals and events spanning a wide area of interests including sports, culture, fine arts, and industry are also held, such as the Ayahashi Road Race through the Sea Tournament in April, in which a road race takes place along the "Road through the Sea," local Hari (Dragon Boat) competitions in June, the Uruma City Eisa Festival in the month of July according to the lunar calendar, the All Okinawa Lion Dance Festival in September, the Uruma City Industrial Fair in December, as well as the Spring Art Festival in January.

In addition, the All Okinawa Bullfighting Tournaments where the top fighting bull in Okinawa is determined are held in May and November under the sponsorship of the Okinawa Prefecture Bullfighting Federation.

見 華 技 あり あり あり あり!!

春の芸術祭

ごたえ

全島獅子舞フェスティバル

Sea Art フェスティバル

ハーリー大会

闘牛

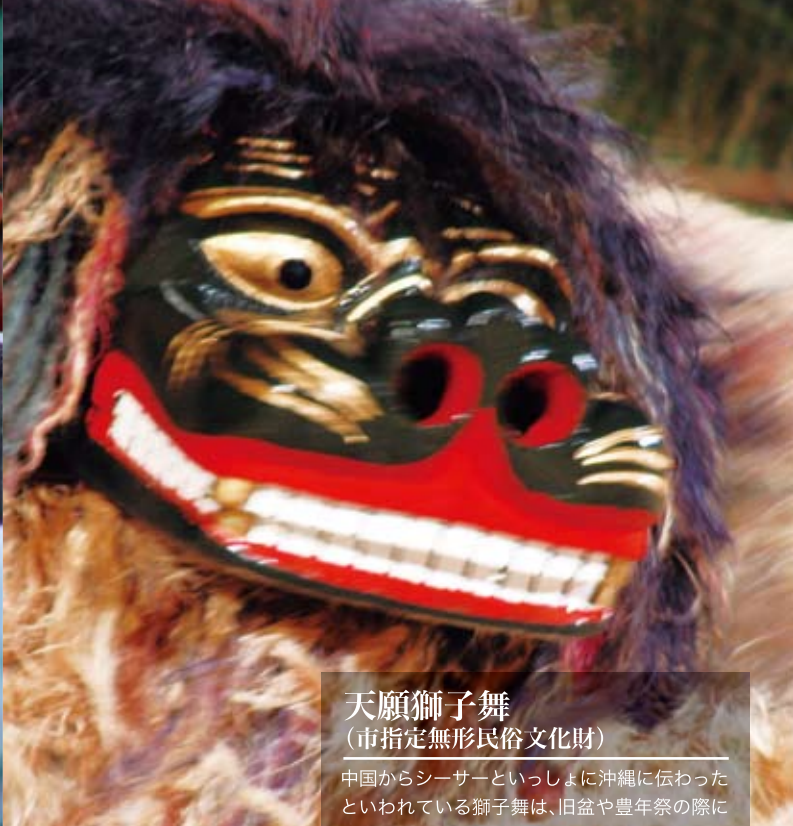




平敷屋エイサー (市指定無形民俗文化財)

300年以上の伝統があるといわれ、1996年、環境庁が選定した「地域で将来に残したい日本の音風景100選」に選ばれました。三線の地謡にパーランクー、男女の手踊りが加わり、ゆったりした振り付けには力強さを感じられます。

URUMA
CATALOG
2010



天願獅子舞 (市指定無形民俗文化財)

中国からシーサーといっしょに沖縄に伝わったといわれている獅子舞は、旧盆や豊年祭の際に場を清め邪気を祓うものとされています。天願の獅子舞は、山へ草刈りにいって獅子に出会うというユニークなストーリーで、角ばった顔つきも他の地域の獅子には見られない特徴です。

伝 統 文 化

うるま市

それは心



マーラン船の建造技術 (市指定文化財)

マーラン船とは18世紀初め頃、中国の福建地方から伝来したといわれる、沖縄で最も普及した船で、山原船とも呼ばれました。うるま市の船大工越来治喜さんが持つマーラン船の建造技術は市の文化財に指定されています。

三線 (県指定有形文化財、市指定有形文化財)

うるま市には、古くは琉球王朝時代に作られたとされる三線のほか、名器と呼ばれる三線がいくつか残されています。三線翁長開鐘は尚澆王(在位1804年~1834年)愛用した名器で、真壁型の正型、心の部分に「翁長開鐘」と朱塗りで銘記があります。ちなみに開鐘とは、夜明けに撞く寺院の鐘のことでよく響きわたることを意味します。三線真壁型は琉球古典音楽の大家・幸地亀千代(1896年~1969年)が愛用し、戦前に辻町の名器の一つとして伝えられた三線です。そのほかにも、三線平中知念方、三線鴨口与那方など、歴史のある三線が伝えられています。



うるま市の各地域に残るエイサー、獅子舞、闘牛などの伝統芸能や文化は、長い歴史をもっており、古くは琉球王朝時代まで遡ることができます。これらの伝統芸能や文化は、琉球王国から沖縄県、沖縄戦を経てアメリカ軍による統治、そして本土復帰と、時代の大きな波に揺られながらも、今日まで脈々と伝えられてきました。いつの時代でも地域の人々が心の拠り所として大切に守り、親から子の代へ、子から孫の代へと、互いにふれあいながら、まさに手渡して伝えられてきたのです。

Traditional Culture

Eisa, lion dances, bullfighting and other traditional performance arts and culture surviving in the communities of Uruma City have a long history, extending back even to the time of the Ryukyu Dynasty of old. These performance arts and culture have been passed down unbroken to today, drifting along the waves of time from days of the Kingdom of the Ryukyus to the formation of Okinawa Prefecture, the US military administration after the Battle of Okinawa, and on past Okinawa's return to Japan. In every age and time, people carefully protect these traditions with all their heart and soul, and take care to hand them down from parent to child and then child to grandchild as these performance arts and culture touch a chord with all generations.



田場ティンペー (市指定無形民俗文化財)

「ティンペー」は沖縄の古武術の一つ。ティンペーとは直径70cmほどの円形の盾のこをいい、片手にティンペー、もう一方の手に長刀を持ち、鉾を持った相手と攻防の技を演じます。中国から伝わったといわれていますが、田場地区では古くから受け継がれている伝統文化の一つです。

民が誇りにしているもの。 のよりどころとなり、魂を熱くする。



宮城ウシデーク (市指定無形民俗文化財)

ウシデークは沖縄の農漁村で広く見られる祭祀舞踊です。豊年祈願などが無事済んだことを祝う行事で、女性だけで行われます。村のアシビナー(遊び庭)やアシャギナーと呼ばれる広場で、ニートゥイ(音取り)と呼ぶ小鼓を持った年長の女性を先頭に、中年の主婦や少女が続ぎ、左回りに輪を描きながら踊ります。



津堅島の唐踊 (県指定選択文化財)

津堅島の伝統行事「八月遊び(旧暦8月9日~15日)」の中で行われる踊り。唐踊と呼ばれていますが、中国の踊りではなく、外来のものという意味づけだといわれています。パーランクーを打ちながら、首を左右に振って踊ります。



伊波メンサー織 (市指定無形民俗文化財)

地機のプロトタイプといわれる原始的な機で織られる織物で、日本に現存する織機では、北海道のアツシ織と八丈島のカッパ織の3例しかないという貴重なものです。一般的な機織と違い、経糸を木に固定してもう一方を織り手の方に張り、緯糸の織り込みが進むと織り手が前に進みながら織っていきます。

史跡・遺跡・文化財

Historic Sites, Ruins and Cultural Treasures

私たちの祖先が長い歴史の中で育て、伝えてきた文化遺産。

うるま市には、琉球の開闢神話にまつわる史跡から、数千年前の住居跡、グスク時代、琉球王朝時代、そして近代にいたるまでの史跡・遺跡が数多く残っています。うるま市ではこれらの史跡・遺跡を歴史・文化遺産として大切に守り、その価値を後世に伝えていきます。

In Uruma City, numerous historic sites and ruins survive from the gusuku (castle) period, Ryukyu Dynasty, and more recent times, ranging from historic sites linked with Ryukyu creation myths to habitation sites of thousands of years ago. Uruma City protects these historical sites and ruins with great care as vestiges of the City's cultural heritage and history, a value that will be passed on to succeeding generations.

県指定文化財

Cultural assets



勝連間切南風原村文書

昭和52年3月15日指定

勝連南風原には明治20～30年代に作成された地割関係の文書(冊子68冊、地籍図29葉)が保存されています。なかでも明治29年(1896年)の地割関係の文書は従来の土地制度関係史料には見いだせない新史料が含まれており、地割が農村において実施された具体的な過程を知る貴重なもので、近世、近代の沖縄の農村経済制度を知る重要な史料です。

市指定文化財

Cultural assets



嘉手苺観音堂 [かでかるかんのんどう]

真言宗の僧・日秀上人(1503年～1577年)が創建したといわれる観世音菩薩を祀る御堂。口碑によると、五代伊波按司は信心深く、金武に来ていた大和の僧に勧進して観音堂を立てましたが2回も火災にあったため、嘉手苺に移転させたといわれています。

国指定史跡

Cultural assets



安慶名城跡

昭和47年5月15日指定

自然の断崖と急傾斜を巧みに利用した山城。外側と内側に二重の石垣を巡らす、県内では珍しい輪郭式のグスクで、築城時期の詳細は不明。伝承では14世紀頃、安慶名大川按司の築城ともいわれています。



仲原遺跡

昭和61年8月16日指定

縄文時代晩期(2400年～2500年前)とみられる石垣の竪穴式住居跡。規模は2～3m、4～5mで約1～2坪の正方形でまとまった集落が、保存のよい状態で東西にかけて直線上にならんでいます。土器、石斧、磨石、凹石、骨製品、貝製品などが出土、人骨も5体出土しています。

伊波貝塚

昭和47年5月15日指定

おほやまかしわ
大正9年、大山柏氏によって発見された貝塚。出土した山形の口縁部に4個の突起をもつ平底の深鉢形をした土器は、伊波式土器と称され、縄文後期(紀元前3500年)を代表する標準土器として知られています。



シルミチュー

浜比嘉島の南南東の森の中にあり、琉球開闢伝説の神シルミチュー・アマミチューが住んでいた場所と伝えられています。アマミチューの墓と同様に、年頭拝みが行われます。洞窟の中にある鍾乳石は、子宝の授かる霊石として拝まれています。



平敷屋タキノー

1727年脇地頭としてこの地に配せられた平敷屋朝敏は、水不足になやむ農民のために、ため池をほりました。その時ほり出した土を盛り上げ築いたのがこの丘だと伝えられています。1986年には、和文学者であった朝敏の歌碑記念碑も建立されました。



伊波ヌール墓

首里王府時代に、伊波、嘉手苅、山城、石川の各集落の年中祭祀を司っていた公儀ノロ・伊波ヌールの遺骨を納めたといわれています。平成6年に実施された墓の調査で、琉球石灰岩の家形厨子甕(生活雑器)等が確認され、甕の中にはそれぞれ2体分の骨が納骨されているのが確認されました。崖下の洞穴を利用した掘り込み式のお墓で築造年代は300年前のものと推定されています。



ヤンガー

宮城島の上原にある湧水。1849年頃に造られたと伝えられています。泉の内部はトンネル状に石が組まれ、湧き口まで続いており、沖縄の石造建築技術が優れているのを示しています。毎年正月に清水を取る習わしであるウビナリーがあり、各門中がヤンガーを拝み、健康祈願を行います。



ワイトウイ

ワイトウイは勝連平安名の南西部に築かれた断崖を掘削した農道です。岩を割って取ったという意味から「ワイトウイ」と呼ばれていますが、正式には比殿農道といいますが、かつては急崖の山道を上り下りしていましたが、村人の苦難を解消するため、岩山をトゥングエ(金鍬)とカニガラ(石割棒)など人力だけで150mもくりぬき、1932年から3年の歳月を費やして完成しました。

ガーラ砦

昭和3年(1928)の大典記念(昭和天皇の即位記念)の年、ガーラー山を切り開いてガーラ川に架けられたアーチ型の石砦。長さ5m、幅2m、川底からの高さ5mに造られており、上に重圧がかかるほど石砦がしまってますます固くなっていくといわれています。



大田坂【ウフタピラ】

今から約200年ほど前にあかばんだ掟、玉城親雲上、上門小ビニーの三者の企画と設計で施工され、地元や近隣の住民から資材の協力を得て完成したと伝えられています。幅2~3m、全長300mにおよび、石灰岩を敷き詰めた石畳で、首里王府から各間切間の伝達に利用された道で、宿道(現在の国道にあたる)としても利用された歴史の道です。



沖縄諮詢会堂跡【しじゅんかい】

沖縄戦後初の政治機構、沖縄諮詢会の会堂跡です。沖縄諮詢会は、昭和20年8月、米軍政府に招集された各地区収容所の住民代表が行った投票において、15人の委員が選出され発足しました。昭和21年4月の沖縄中央政府発足により、その機能が東恩納に移るまで使用されていました。

あ

【内間ホウヤー木跡】

18世紀終りごろ、内間村(当時)の住民が勝連平安名から現在の場所に移り住んだ時に植えられたと伝えられているガジュマル。枝がはうように伸びているところからホウヤー木と呼ばれるようになりました。1996年、台風による強風で大木は倒れてしまいました。その後地元の人たちによって倒れた木の枝の一部が元の場所に植えられました。



内間ホウヤー木跡



うるま辞典

もっと知りたい
うるま市のこと!

歴史のこと、伝統行事、伝説、最近の話題…etc. もっと知りたい、うるま市のあんなこと、こんなことを集めてみました。

Uruma Dictionary

For anyone who would like to have more information about Uruma history, traditional events, legends, recent issues and so on, the Uruma Dictionary compiles all the who, what, where, when and why about the City.

おおたがー 【太田井泉】



太田井泉

太田井泉はもともと太田遊庭の下方にあったが、集落に乱暴者が多くなり、その遠因が太田井泉にあるとされた。そのため、元の井泉は水神として祀り、嘉永4年(1851)頃、今の場所に新たな井泉が作られました。水質が良く、水量も豊富で、生活用水として利用されました。

か

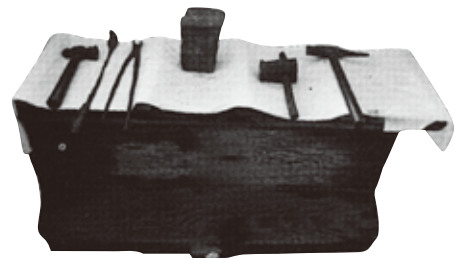
かっちゃん 【勝連パーマー】

本名は前浜三良といい、勝連間切平安名の前浜家に生まれ、勝連間切の地頭代になった18世紀の人物。機知に富んだ人として伝えられ「龍潭工事の昼の月」など、多くの逸話が残っています。南風原村を勝連城南側の不便な場所から、現在の肥沃な場所へ移動させたり、養殖場を設けて、養殖の先駆者の役割を果たしたと言われています。



勝連パーマー

かんぜーくー 【金細工(琉球舞踊)】



金細工鍛冶道具

石川伊波の屋号「金細工」には、代々受け継がれてきた「金細工鍛冶道具」があり、市指定文化財にもなっています。琉球舞踊の有名な雑踊り「金細工」の由来の人物である「テーファー加那」の遺品と言われています。

代々鍛冶屋であった「金細工」の息子として生まれ育った加那は、美男

子で明るい性格の持ち主で、そのひょうきんぶりから「テーファー加那」と言われて、みんなの人気者でした。明治時代には、沖縄芝居の名優・玉城盛重たまぐさくせいじゆうは加那をモデルに、雑踊り「金細工」を創作しました。今でも雑踊りの傑作のひとつといわれている一曲です。登場人物の若い男女が入り交じって楽しく展開するので、「打ち組み踊り」とも呼ばれています。

さ

【サターヤー跡】

この煙突は、1940年、地元の有った11組のサターヤー組（製糖組合）が合併し、新設したサターヤー（製糖工場）の跡です。しかし、新設後4ヶ月操業しただけで、沖縄戦で破壊され、今は当時を物語る弾痕を残すレンガ造りの煙突だけが、サトウキビ畑の中に立っています。

サターヤー
（製糖工場）
の煙突

た

【高離節の歌碑】



高離節の歌碑

高離島や 物知らせどころ にか
物知やべたん 渡ちたばうれ

「高離島はさまざまなことを教え悟らしてくれるところです。離島の苦しみ、人の情け、もう十分に思い見ることができました。私の生まれ育った彼の地に、願わくばわたしもこの命あるうちに還りつきますことを」

高離島とは宮城島のこと。歌の作者は近世沖縄の和文学者である平敷屋朝敏へしきやちようびんの妻・真亀（1700～1739年）と言われています。歌碑は、宮城島の発展と、文化遺産の保存継承を目的に、この景勝の地をさらに発展させ、島の名所として定着させようという願いをこめて「高離節」歌碑建立期成会や地元有志によって建てられました。

ちきんあかつちゆ 【津堅赤人】

沖縄の古武術に津堅棒という棒術の形があります。その達人と伝えられているのが津堅赤人。言い伝えによると、赤人は、六尺あまりの筋骨逞しい大男で、津堅島に隠通していた津堅親方に唐手（空手）と棒術を学び、特に棒は師を凌ぐほどの達人になったといえます。ある日漁に出た赤人は、暴風雨にあい、漂流して朝鮮に漂着。そこで人食い虎を退治し、村人に厚くもてなされたあと琉球へ帰ったといわれています。

【トラバーチン】

勝連平敷屋に産出する高級石材。地元ではエーマ石又はククチー石と呼んでいます。

昭和4年、工学博士武田吾一氏が琉球の古称ウルマを取ってウルマ石と命名し、その後大阪の金王石所が金王石と命名するなど、幾多の異称がありますが、現在取引上の名称は「琉球トラバーチン」（俗称ウルマ石）。

成因は水に溶解した炭酸カルシウムで、数万年を経て生成したと考えられています。防音、防湿、防熱に優れ、国会議事堂のほか、皇居の大広間壁面にもトラバーチンが使用されています。



トラバーチン

な 行

【仲原貝類コレクション】



仲原貝類コレクション

海の駅あやはし館の「海の文化資料館」の一角には、世界中の貝の標本が展示されています。これは、平安座島出身の仲原正和氏が約20年かけて収集したもので、その数約3,000個。沖縄の貝も数多く展示されています。

は 行

【浜千鳥の歌碑】



浜千鳥の歌碑

旅はまやどや浜宿い 草ふぬ葉あど枕
寝にてん忘わしららん 我親わうやぬ御側うすば
千鳥や 浜をていチュイチュイな

「旅では浜辺に野宿し、草の葉を枕にする。寝ても忘れられないのは父母のこと。千鳥が浜でチュンチュン啼いている」

およそ160年前、首里王府の収納係をしていた赤野・伊波家の先祖

が、仕事のミスからお咎めがあると勘違とがいをして具志川へ逃亡した際、赤野の浜で鳴く千鳥の声に郷愁感に誘われて詠んだと語りつがれている琉歌です。

戦前には沖縄から本土へ紡績工場等に出稼ぎに行った人達が、慣れない異郷の地でこの歌を唄い涙を流し、慰め合ったといわれています。

【平安座ハッター】

言い伝えによると、昔、平安座島にハッターという力自慢の男がいました。漁業に従事していたハッターは一人で船を海から陸へ上げたり、陸から海に下ろしたり、牛を担いで歩いたり、年貢の米俵3俵を肩に担いで首里まで歩いて納めにいったといわれています。

ハッターには妹がいたようですが、彼女もまた力持ちだったそうです。ある時、具志川の力自慢の男がハッターと力比べしようと、訪ねてきました。あいにくハッターは留守で、妹がお茶を出しました。そして、大きな石の煙草盆を軽々と持ち上げて差し出しました。具志川



平安座ハッター

の力自慢の男は、妹さえこんなに力持ちだから、ハッターはもっとすごい力持ちにちがいないと思い、逃げて帰ったそうです。

【平安座のサングワチャー】



平安座のサングワチャー

旧暦の3月3日から3月5日にかけて行われる平安座島の最大の伝統行事。中日にあたる旧暦3月4日は、銚もりで突いた魚をノロに奉納し、大漁と島の安泰を祈願。その後、巨大な魚の形をした神輿を囲み、島の東方にある小島(ナンジャ岩)までパレードを行います。平成21年3月、次世代に引き継ぎたい島の景観として「島の宝100選」に認定されています。

ま 行

【マーラン船】

沖縄では一般的に山原船（やんばるぶに・やんばるせん）と呼ばれますが、平安座島の船大工はマーラン船と呼びました。中国の福建省には「マーラン（馬艦）」と呼ぶ船があり、その技術が何らかの影響で平安座島の船大工へ伝えられました。八重山や沖縄に初めて登場するのが18世紀で、平安座島は明治中頃に登場。平安座島は、奄美大島諸島と沖縄本島の北部から南部的那覇などへ結ぶ中継地となり、多くの物資を運びました。海の駅あやはし館にある「海の文化資料館」には、市指定文化財の越来治喜さんが復元したマーラン船が展示されています。



マーラン船

堅島では大根が栽培されておらず、本島からの移入に頼っていました。その購入金額の負担を減らす目的で、試験的に栽培したところ、非常に味のいい大根が出来たので、島での栽培を奨励・普及。やがて津堅大根の名は広く知られるようになりました。

【松劇団・竹劇団・梅劇団】

戦後、石川にあった沖縄諮詢会文化部によって1946年（昭和21年）につくられた公営の劇団。俳優は、沖縄諮詢会（後、沖縄民政府）の職員で、松竹梅の各劇団は、本島の受け持ち地区で慰問公演していました。娯楽のほとんど無いときだけに、どこでも大盛況でした。

まつねかめおきな
【松根亀翁】

津堅島には「津堅大根」といって、全県でも有名になった大根がありました。その津堅大根の栽培を普及させた篤農家。もともと津



松根亀翁

や 行

やまぐすくちや
【山城茶】

石川山城地域で栽培されている沖縄在来のお茶。昭和10年に植付けが始まり、昭和12年には製茶工場が設立。戦後も早くから栽培が再開されました。病害虫に強く、独特の風味と鮮やかな緑の色に特徴があります。



山城茶

ら 行

【リムジン】

中城湾港新港地区の特別自由貿易地域には、メルセデス・ベンツをベースにしたリムジンやトヨタ・ハイエースをベースにしたキャンピングカーなど、ユニークな製品を製造する企業が立地しています。



メルセデス・ベンツをベースにして造られたリムジン